



一般質問

金子 克己 議員

市社会教育行政を機動的に



【質問】 市の社会教育行政を進める方向が不透明で、**■**標が見えない。市民と委員を巻き込んだ姿も見えてこないが。

【教育長】 現在、学習機会の拡充・地域の充実・活性化等を中心に各部署との連携や改善を**■**るべく作業をしている。また、

今後は社会教育の定義および任務を具体的に置き、事業計画の確実な実施に向け、社会教育委員と連携に努めて進める考えである。

【質問】 先に社会教育委員から提出された建議書について対応を問う。

【教育長】 建議の内容を真摯に受け止め改善に努力したい。とくに指摘事項の社会教育主事の適正配置、家庭教育や青少年教育などの必要課題の問題、

多様化するニーズに対しての**■**主講座などの要求課題などを中心に対応していきたい。一方、人員削減を含めた行政改革も

求められている。職員の能力向上を**■**りながら、学級、講座の効率的な運営の仕組みを今後とも考えていきたい。

【質問】 叫ばれ続けている各地区にある青少年健全育成会の統合と連携が必要では。

【市長】 青少年育成を含めた社会教育、生涯学習に對し非常におろそかになっていた。私も会長でありながらその協議会に出席していない。本場に反省すべきと考えている。

【教育長】 一つの組織として連携を**■**りながら、情報の共有や統一化を進めていきたい。



【質問】 **■**書館運営について。

【教育長】 幼児期からの読書習慣づけは非常に大事と考えている。**■**書館は市民の重要な学習の場であり、情報拠点の役割が求められている。**■**書館協議会とともに、今後のあり方、方向性を検討していきたい。



一般質問

祝 優雄 議員

佐渡航路にかかわる問題点



【質問】 8月16日、佐渡汽船の社長ほか副社長を含む幹部5人が船舶故障による混乱の最中、謝罪に佐渡市を訪れたと報道で知った。15、16日、佐渡市は市長、副市長、職員が一丸となって奔走、

混乱の佐渡汽船の待合室、汽船周辺の駐車場で乗船を待つ人達に冷たい飲み物を配りながら、熱中症など最悪の状況を防ぐ為必死に声をかけ汗だくの対応も承知のほうである。

佐渡航路は「指定航路の認可」をうけ、義務付けられているサービス基準の維持ができない最悪の事態が発生、最大の繁忙期に社長が休暇を取り続けるとは経営者失格というより人間失格である。

佐渡汽船の実質的なオーナーは知事である。知事

は、18日佐渡汽船の社長と会い、原因究明と危機管理、再発防止の徹底の指示をしたが、社長は経営者としての資質を欠いており、即刻退場を言い渡すべきであった。今なすべきは、ダメージを最小限におさえることであり、知事に求められるのは責任の所在の明確化、航路の安全運航と利用者への信頼回復のプロセスを示すことである。佐渡再生には、佐渡汽船の再建が不可欠、そのためにも佐渡汽船の人事刷新は最低限必要である。このたびのカーフェリー故障を私は、人災ととらえているが、市長はどのようなのか。

【市長】 佐渡汽船が8月16日に来たときに、当然対応のまずさ、事故に対する原因究明と今後の対応について強く指示をした。また、サービス基準がクリアできないことについては当事者として、佐渡汽船幹部の責任について厳しく指摘し、解決について強く要請した。

【質問】 佐渡市は、緊急対策本部を立上げ、被害範囲の確定と被害額の把握、今後の対策を協議しているが、対策の中に被害補償は含まれるのか。

【市長】 佐渡汽船には2つ申入れをしている。

①佐渡汽船は責任をもって補償も含め、きめ細やかな対応をすること。②佐渡観光協会の要望をふまえ、県をはじめ関係機関と連携を**■**り、風評被害などの解消に万全を期し、今後の観光振興に積極的に取り組むことの2点を緊急に申入れられている。

①佐渡汽船は責任をもつて補償も含め、きめ細やかな対応をすること。②佐渡観光協会の要望をふまえ、県をはじめ関係機関と連携を**■**り、風評被害などの解消に万全を期し、今後の観光振興に積極的に取り組むことの2点を緊急に申入れられている。

一般質問

根岸 勇雄 議員

代替船（予備船）の確保は当然



質問 佐渡汽船欠航問題について代替船確保はどのようなのか。

市長 貨物船のチャーターについては9月6日から就航して一■一便新潟・佐渡両方から特に緊急を要するタイミングを必要とする貨物等を運送している。

質問 空路（佐渡―新潟便）の再開について。

市長 佐渡―新潟航空路の継続することを近い将来信じている。現在県が進めている新しい航空会社の体制整備を続けてそれを支援し、調整中という報告を受けている。

質問 市単独事業の発注状況について問う。

市長 現在、建設工事早期発注連絡調整会議が立ち上がっているが迅速で的確な進捗管理を■指し

て今年度も技術担当職員の増員を行い、切れ■のないバランスのいい発注を続けていきたい。

質問 高齢者の所在不明問題について。

市長 100歳以上の高齢者全員について職員が訪問し、所在を確認している。

質問 民生委員の確保について。

市長 民生委員はなかなか見つからないが、ひとつには年齢基準の問題もある。共助の仕組みとしては地域にある人材・施設・各種■体等の資源を再利用する。フル利用して対応せざるをえないと考えている。

質問 職員数の見込みについて。

行政改革課長 平成21年度の職員数は一般会計で

1154人でその他に公営企業会計の職員を含めると1466人である。また平成31年度、人件費54億円に対しては一般会計職員を692人にして公営企業会計職員を含めると889人を計画している。



一般質問

加賀 博昭 議員

おおさど丸の代替船に
■えっさ丸があった

質問 「おおさど丸事件」の被害を最小限にするため代替船確保は絶対条件だが、佐渡汽船も県も佐渡市も真剣でなかった。

市長 私の調査では■「えっさ丸」が鹿児島湾の根占港に長期間係留中で使ってほしいと言っていたが、なぜ市は対応しない。

交通政策課長 車両甲板と岸壁の差が1.8メートルで接岸できないと聞いている。

質問 私は実際に測らせた。小木で1.5メートル、赤浦で1.2メートル、差は30センチで接岸できると佐渡汽船は答えたが。

交通政策課長 それが本当だとすれば私達はだまされた。

質問 対策室を設けてだまされたでは市民は納得しない。この混乱中、佐

渡空港があれば運転者を残して子供は帰せたと客は言っている。同意はどのようなになっている。

市長 6月議会以降10人の同意をとり、未同意者は13人で9月3■現在は91・4%の同意率だ。さらに頑張りたい。

質問 共産党が「非核平和都市宣言」を求めて質問しているが、■分達の先輩の実績も分かっている。すでに24・25年前に■両津市と■畑野町に宣言があり、それを継承すべきだ。もう条例制定の時代になっている。

市長 合併時に「非核宣言」があり、新市で検討されることになっている。県下20市で最後になった「非核平和宣言」を■市町村のものを尊重して、年度内に手続きをへて議

会の承認を得たい。

質問 養子離縁届の説明が、本庁・支所・行政サービスセンターで違うとは何とぞか。

市長 大変申し訳ない。今後そういうことのないようにする。



■「えっさ丸」 現「ぶーげんびりあ」



一般質問

中村 良夫 議員

住み慣れた土地で

安心して暮らせるのが一番



質問 消防法の改正で、設置が義務化された住宅用火災警報器の普及状況と、今後の普及促進は。

消防長 全市の平均58.4%、新潟県の平均42.9%で佐渡市は35.8%と下回っている。今後は9月市職員へのアンケート調査や消防団世帯への設置促進を行い、自治会や自主防災組織等による共同購入を推進していく。

質問 安心・安全な地域づくりのためにも、普及率100%を掲げて進めてもらいたい。

市長 普及を進める手だてを考える。

質問 全市に広がる高齢者行方不明（消えた100歳）をどう見るか。佐渡市の状況、高齢者が住み慣れた土地で安心して暮らせる具体的な対策は。

市長 8月1日で住民登録されている100歳以上の51人に、市職員が自宅や地域へ直接確認を行い、全員の生存を確認している。

高齢福祉課長 敬老祝い制度・緊急通報システム・配食サービス・友愛訪問等が連携できるように研究をしていく。

質問 民生委員の活動費をあげるべき声があるが。

社会福祉課長 研究材料としたい。

質問 新潟県は、カーフェリーのエンジン事故で、損害補償・被害対応をしていない。佐渡市は、企業・団体の聞き取り調査だけでなく（小さな業者も含め）相談窓口を設けるべきだ。

観光商工課長 対策会議の中で協議をすすめていく。

質問 教育費の父母負担軽減・小中学生のいる家庭への就学援助制度の活用と改善について、前向きに検討されているが、生活保護基準1.4倍にして増えた項目（クラブ活動費、PTA会費、生徒会費）とが示している全ての項目を支給せよ。

学校教育課長 支給額等をどのように定めるか、検討している。

学校教員 文科省では1校あたり1学年2学級、佐渡市の場合1校6学級が適正と考え、統廃合を進めている。

質問 適正規模でない、複式も解消できない学校を残す意義はあるのか。

学校教育課長 適正規模で

学校教員 適正規模で

学校教員 適正規模で

学校教員 適正規模で



普及促進の懸念（佐渡市中央消防署庁舎）



一般質問

中 文夫 議員

学区解放について



質問 今市の情報化社会においては、学校の役割は集性を提供することにとどまると考えるがいかがか。

教育長 教育は集性にある。今、一番必要と求められていることは、豊かな学力と、よりよい人間関係を築く能力だ。そのため、一定規模以上の集性の中で過ごす環境が大切である。

質問 どの程度の学校が望ましいか。

学校教育課長 文科省では1校あたり1学年2学級、佐渡市の場合1校6学級が適正と考え、統廃合を進めている。

質問 適正規模でない、複式も解消できない学校を残す意義はあるのか。

学校教育課長 適正規模で

学校教員 適正規模で

学校教員 適正規模で

学校教員 適正規模で

学校教員 適正規模で

学校教員 適正規模で

学校教員 適正規模で

質問 集性を求めることが大事だが、地区の理解を得て統合を進めることが基本となると小中連携校として残す方法しかないと考える。

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性

質問 適正規模と集性



教育長 学校選択制については、まだ保護者から声が上がっていない。必要があればいずれ出てくるだろうが、事情があった場合の範囲内で対処する。

教育長 学校選択制については、まだ保護者から声が上がっていない。必要があればいずれ出てくるだろうが、事情があった場合の範囲内で対処する。

教育長 学校選択制については、まだ保護者から声が上がっていない。必要があればいずれ出てくるだろうが、事情があった場合の範囲内で対処する。

教育長 学校選択制については、まだ保護者から声が上がっていない。必要があればいずれ出てくるだろうが、事情があった場合の範囲内で対処する。

教育長 学校選択制については、まだ保護者から声が上がっていない。必要があればいずれ出てくるだろうが、事情があった場合の範囲内で対処する。



一般質問

本間千佳子 議員

住民サービスの視点で

行政改革を

**【質問】** 子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成は、6月定例会でも訴えてきた。厚生労働省は子宮頸がん予防ワクチン事業で接種費用の3分の1を助成するとしている。佐渡市はいつから実施するのか。公費助成の内容と取り組み状況を問う。**【市長】** 来年度実施に向けて、ヒブワクチン等のかどこまでやれるか決めた。**【市民生活課長】** ■保補助3分の1は定額であり、医療機関の単価によって多少変わると承知している。子宮頸がんワクチンのほかに今、ヒブワクチンや小児肺炎球菌ワクチンが出ているので、対象者をどうするかを含み、総合的に財政とも検討を進める。**【質問】** 廃プラスチックは、住民の協力で乾いた状態にして出されているが雨天時対策を問う。**【環境対策課長】** 廃プラスチックは、ぬれていると分別作業の効率が落ちるので、乾いた状態で出している。雨天時には、処理施設に搬入の際、パッカー車から水抜きをおこなう方法で対応している。**【質問】** 廃棄物リサイクルの取り組みで、雑紙や布の分別推進の考え方を問う。**【環境対策課長】** 可燃ごみの中で量を占めるものが雑紙と布なので、今後対策をしていきたい。**【質問】** 市民からマイバツクのような「マイ水筒」運動の声が寄せられている。行政の呼びかけについて考えを問う。**【市長】** マイ水筒も、かなり大きな運動になっている。佐渡の生活にあった運動を検討する必要があると考える。**【環境対策課長】** ごみの発生を抑える効果が大きいので、広報等を通じて広く市民の協力を願っていき**【質問】** 市民の窓■対応に「手押し式呼び出し音」装置にする考えを問う。**【市長】** 仕事をしている職員を呼び出すチャイムよりは、■配り・気くばり・■ら挨拶・声がけを努力することが重要である**【環境対策課長】** 可燃ごみの中で量を占めるものが雑紙と布なので、今後対策をしていきたい。

一般質問

猪股 文彦 議員

佐渡汽船・市の大幅な

株式取得で発言強化を

**【質問】** 市長2期■である最終年度の来年度予算における重点事業と予算規模はどうなるのか。**【市長】** 重点事業については、将来ビジョンの実現のために現在検討を指示している。23年度予算額は、将来ビジョンで449億と見込んでおり、それを■指して作業を進めている。**【質問】** 佐渡観光の玄関■に両津港北埠頭再開発事業を市長は決断し、ひとつの観光の起爆剤になると期待するが、規模や施設の内容が中途半端なものであつては無意味である。観光客が必ず寄る、あるいは寄りたくなるものにするため、規模をキチンと考える必要があると思うが。**【市長】** 今■、基本設計に

基本的要件をきっちり出して、少しくらい設計費等をつぎ込んでやはりあそこは「佐渡の表玄関」、みんなが行ってみたい、行くことが喜びであるという施設をきっちりと言算も含めて、やっていきたいと思う。

【質問】 今■のおおさど丸やジェットフォイルの故障で、改めて佐渡にひとつの唯一の生活航路だといふことが島民に再認識された。ただ佐渡汽船は民間会社で、佐渡市に指示する権限はない。大株主の県に重大な責任がある。しかし、今後島民の生活を守るため、大幅な株式取得で、佐渡汽船に一定の権限を持つ必要があると考えるが。**【市長】** 佐渡航路についての検討会の立上げを知事

に直接お願いした。株式の大幅取得も議論になるところだ。発言力強化の方法をとっていかねばならぬと考える。

【質問】 この問題で改めて佐渡の災害時の対応のための両津港湾の整備が必要だと考える。私の案だと水深13メートルの港湾が整備されれば、いかなる大型船も着岸できる。検討する必要があると思うが。**【市長】** 災害、産業基盤、生活環境の整備を含めて検討したい。港湾計画改定に向けた県の検討会に要望したい。